



# 九条弘道

— 学校だより —

京都市立九条弘道小学校

校長 日吉 肇

令和6年3月6日

後期学校評価号

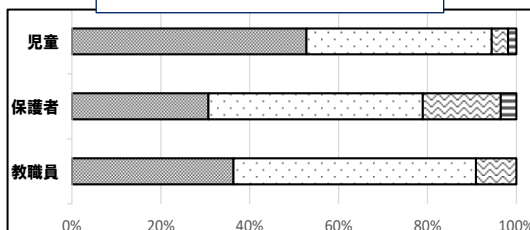
Tel:671-6981 Fax:691-3458 <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/kujokodo-s/>

## 【確かな学力】

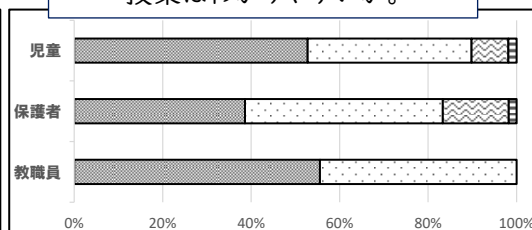
～学ぶ力を十分に引き出し学びに向かう積極的な姿勢を育てる～

■出来ている □大体出来ている ▨あまり出来ていない ■出来ていない

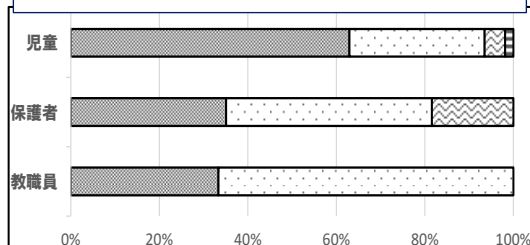
意欲的に学習しているか。



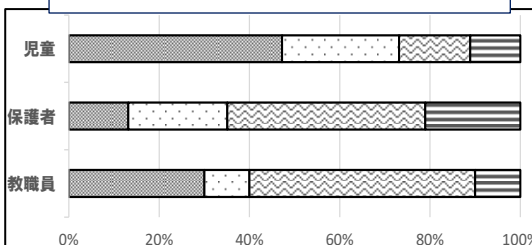
授業はわかりやすいか。



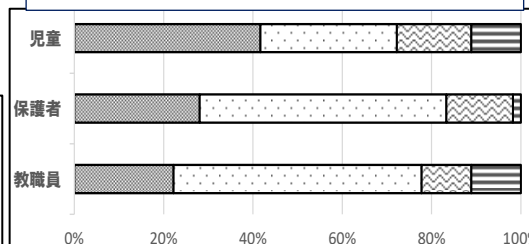
GIGA端末を使った学習はわかりやすいか。



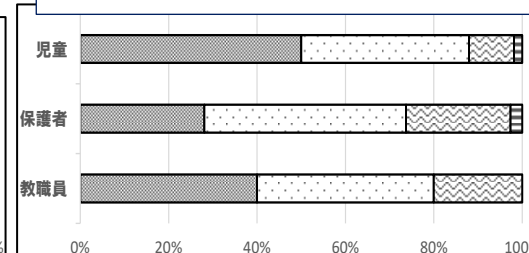
進んで本を読んでいるか。



家で15分×学年以上の学習（自主学習も含めて）ができているか。



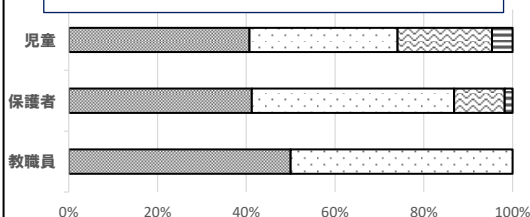
家で、学習準備（えんぴつけずり、時間わりなど）をして、忘れ物のないように気をつけている。



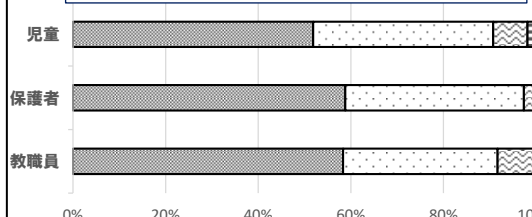
## 【健やかな体】

～生きる力を高める～

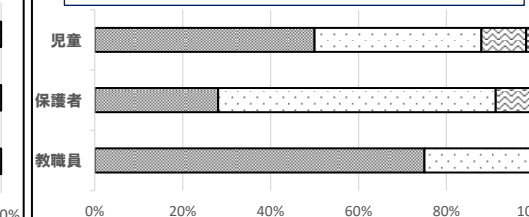
早寝・早起き・朝ごはんなど、健康に気をつけた生活ができているか。



日頃から安全に気をつけた行動ができているか。



ものを大切に、使った物は元の場所に返しているか。



## 「前期学校アンケート（2月）」の結果をお知らせします

本校では、年2回（前期・後期各1回）、教職員、子ども、保護者の方々に対して「学校アンケート」を実施しております。このアンケートは、現在進めている本校の教育を振り返り、成果と課題を明らかにし、本校教育をさらに充実させていくために活用しています。

後期アンケートの結果をご覧ください、子どもたちをよりよく育てるために学校、家庭、地域で今後できることをぜひそれぞれのお立場で考えてみていただければと思います。

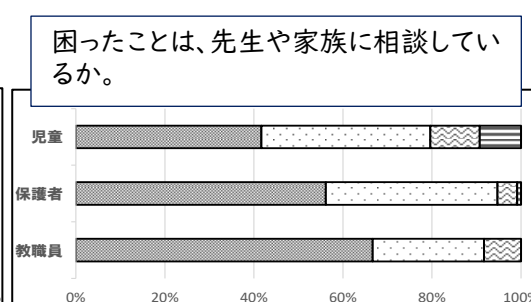
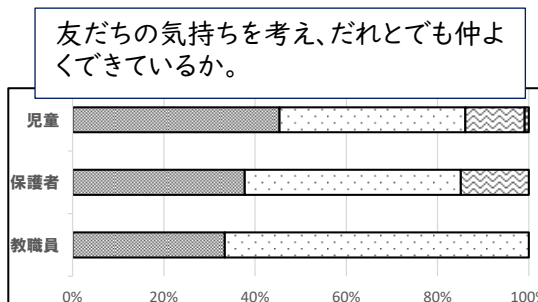
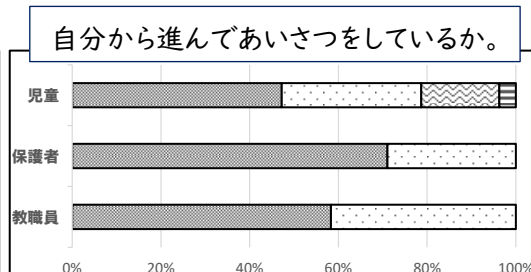
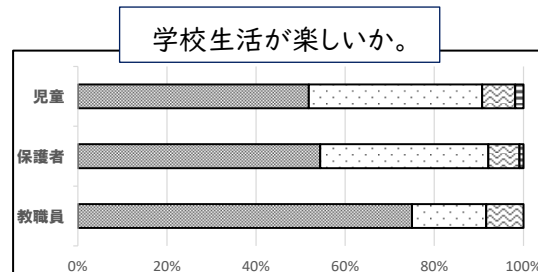
「意欲的に学習しているか」という設問に対し、94.5%の子どもが肯定的な回答をしています。「授業がわかりやすいか」という設問については、89.8%の子どもが肯定的な回答をしています。前期と比べ6.5%下がっています。GIGA端末を活用した授業については、93.6%の子どもが肯定的な回答をし、前期と比べ、15%上がっています。今後、GIGA端末の有効な活用も含め、すべての子どもが「わかった」と実感のできる授業づくりを目指していきたいです。また、読書についての設問では、肯定的な回答が73.1%で前期に比べ8.7%下がっています。豊かな語彙や想像力を高めるためにはよい本との出会いが大切です。今後、様々な機会をとらえて出会うきっかけを作る取組を大事にしていきます。

そして、家庭学習についての設問から3割に近い子どもたちが十分に家で学習できていないと回答し、これは前期と変わりませんでした。子ども自らが目的をもって学習に向き合えるよう工夫が必要であり、家庭との連携も欠かせないと考えます。引き続き、ご協力をお願いいたします。

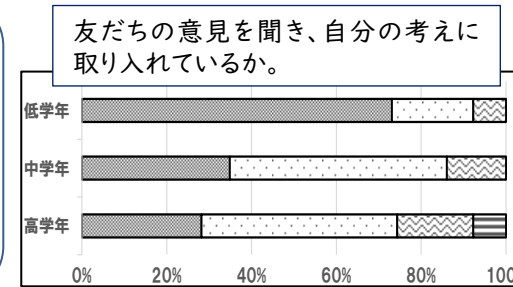
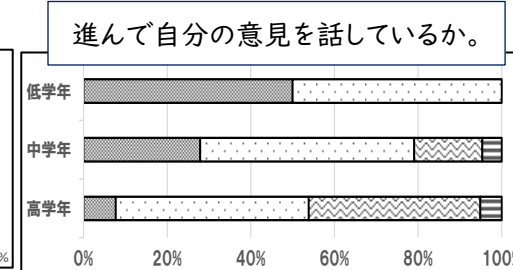
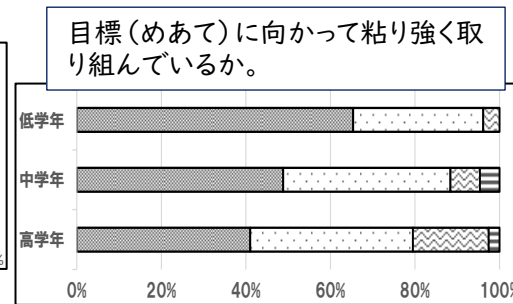
子どものアンケート結果を見ると「安全」と「片付け」への肯定的な回答が、前期より10%程度上がっています。保護者や教職員の粘り強い声かけが成果となっていると思われます。一方で、基本的な生活習慣ができていると回答している割合が前期と比べ15%程度下がっています。特に就寝時刻が遅くなる傾向があり、それに伴い朝起きる時刻が遅くなっているようです。

心身ともに健やかに過ごすためにも基本的な生活習慣を身に付けることは必須です。引き続き、声かけ等ご協力をお願いいたします。

## 【豊かな心】～豊かな人権感覚を育てる～

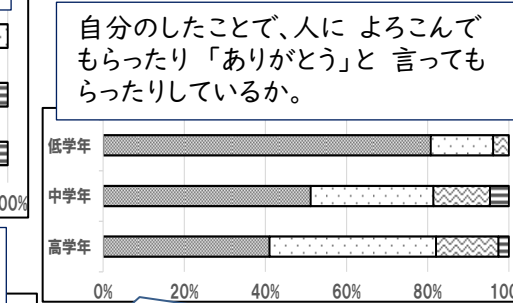
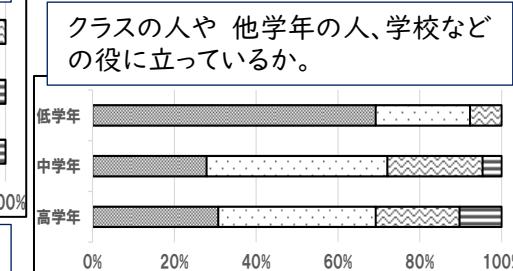


## 【学校独自の取組】



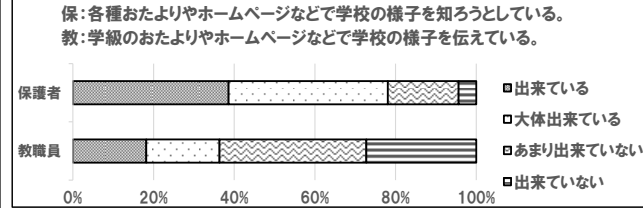
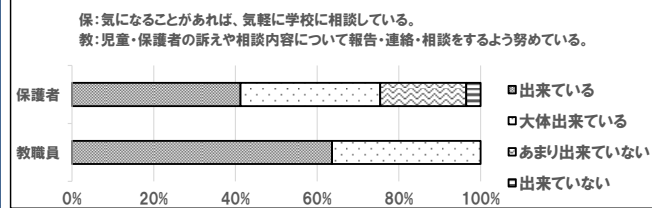
学校教育目標

「夢に向かってたくましく  
輝く九条弘道の子  
～つなぐ・つながる 発信する～」  
の達成をめざして



「学校は楽しい」の設問に対し、91.0%の子どもが肯定的に回答しています。これは、前期とほぼ変わっていません。しかし、9%の子どもが「あまり出来ていない・出来ていない」と回答しています。そして、「困ったことを相談しているか」という設問でも、2割の子どもが「あまり出来ていない・出来ていない」と回答をしています。これは、前期より10%程度増えています。日々の生活の中で、何か困りがあると、学校は楽しい場所ではなく不安な場所となります。日頃から子どもたちの様子をしっかりと見つけ、子どもたちの話に耳を傾ける努力をしなければなりません。さらに、相談しやすい雰囲気が、教室にも学校にもあるそんな学校になるよう努力していきます。そのような安心した中で、子どもがもてる力を存分に発揮しながら楽しく学び、笑顔で話したりあいさつしたりする姿をたくさん見られる学校づくりに努めます。

### 家庭と学校のつながりについて



学校へ相談しやすいよう教職員は、努めていると回答していますが、すべての保護者にとって「気軽」に相談できる場であるとは十分に言えないようです。前期と比べても大きく変化はありませんでした。子どもを中心にして、学校と保護者が常に連携をとり、同じ方向を向いて育てていけるよう、その連携の場を探っていきたいと思います。また、学校の様子について、保護者の方は「知ろうとしている」の回答と教職員の「伝えている」の回答に大きく違いがあります。この結果を受け止め、子どもたちの様子を学校だより、学校ホームページ、参観等を通して学校や学級の取組の内容、また子どもたちの様子を分かりやすく伝える努力をしていきたいです。そして、わからないことや気なることがありましたら、いつでもご相談ください。

子どものアンケート結果を、低学年・中学年・高学年別に分析しました。「目標をもって取り組むこと」に関して、どの学年も前期より少しですが下がっています。「自分の意見を話すこと」については、低学年が6%、中学年が10%上がっています。高学年については10%下がっています。「友だちの意見を聞くこと」については、低学年と高学年において少し下がっています。また、「人に喜んでもらっているか」という設問は、前期と比べ、中学年と高学年で10%程度上がっています。後期になり、異学年と交流する機会が増えたことや友だち同士のつながりが深くなったことが考えられます。

今後、学習であっても行事であっても、子どもの主体的な姿勢を引き出すことを大事にしていきたいと考えます。目的を明確にし、友達と話したり活動したりすることを通し、達成感や成就感を味わえる工夫を取り入れていくようにします。